

第1回館林市立学校適正規模・適正配置南地区検討委員会 議事録				
日時	令和8年6月10日（水） 午後6時00分 ～ 午後7時57分			
場所	館林市文化会館 〔合同開催（北地区、西地区、南地区）〕小ホール 〔南地区検討委員会〕4号室			
出席者	委員	村山 義久 栗田 裕 桑子 博行 森脇 剛 高井 美智代 平井 智久 高津 明子 間 あさひ 知久 大輔 田端 智子 橋本 美帆	欠席委員	鎌田 尚之 清水 涼子
	市教委	教育長 中村 美江子（合同開催部分）		
	事務局	教育総務課長 荒川 博一 学校適正配置推進室長 栗田 祥仁 学校教育課指導係長 高松 好則 学校適正配置推進室 学校適正配置推進係員 横山 瑠璃子		

【次第 1 から 4 までは北地区、西地区及び南地区合同で開催】

1 開会

2 委嘱状交付

- ・中村教育長から北地区、西地区及び南地区の出席者 65 名に委嘱状が渡される。

3 教育長挨拶

発信者	内容
教育長	皆様、こんばんは。教育長の中村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ただいま、委嘱状をお渡しさせていただきました。委員をお引き受けいただき大変ありがとうございます。また、皆様には日頃から館林市の教育に関しまして大変ご尽力いただき、心より感謝申し上げます。 本市教育委員会ではこれまで、学校再編における基本方針の策定と説明会を開催してまいりました。説明会では、多くの皆様からそれぞれの学校に対する思いや子どもたちに対する心配の声、新しい学校に対するご提案など、たくさんのご意見をいただきました。これからの議論は方針を具体的な形にしていく非常に重要な段階となります。委員の皆様には説明会でいただいた地域の思いや現状、そして、将来の子どもたちの姿を十分にお考えいただき、所属団体の代表として建設的な議論をよろしくお願いいたします。検討の過程では多様な視点に基づいた活発なご意見が交わされることと思います。 そのような中でも、全員が目指す目的は一つです。子どもたちのより良い教育環境づくり、そして、子どもたちの学びが充実し、健やかな成長ができる学校をつくることです。委員の皆様のこれまでの豊富なご経験や広い見地からのご意見をいただきながら、最善の計画を策定してまいりたいと考えております。 これから 6 回と長い期間となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

4 館林市立学校適正規模・適正配置基本方針について

- ・基本方針の内容について説明。

【合同検討委員会出席者】

- ・委員：北地区、西地区及び南地区検討委員（65 名）
- ・市教委：教育長
- ・事務局：教育部長、教育総務課長、同総括係長、同施設整備係長、学校教育課長、同教職員係長、同指導係長、学校適正配置推進室長、同学校適正配置推進係長、同学校適正配置推進係員

【以降、地区ごとの会場へ移動〔北地区：小ホール、西地区：３号室、南地区：４号室〕】

- ・委員１３名の過半数となる１１名の出席により、南地区検討委員会が成立することを確認。

5 自己紹介

- ・委員と事務局の自己紹介。

6 委員長及び副委員長選出

- ・委員の互選により、村山委員を委員長に選出。
- ・委員から副委員長の推薦が出ず、事務局から知久委員を副委員長に推薦。承認される。

7 議事

発信者	内容
事務局	それでは、この後の進行は規則第８条に基づき、村山委員長に議長として進行をお願いいたします。村山委員長、よろしくお願いいたします。
委員長	まず、議事に入る前に、館林市立学校適正規模・適正配置南地区検討委員会傍聴等に関する規程について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	それでは説明させていただきます。本日お配りした「館林市立学校適正規模・適正配置南地区検討委員会傍聴等に関する規程（案）」をご覧ください。館林市立学校適正規模・適正配置南地区検討委員会は、本市の附属機関に該当する組織となりますが、この附属機関は館林市附属機関等の設置の指針及び運営等に関する要綱で会議等は原則公開と規定されております。このことを踏まえ、第２条では会議の公開について規定しております。この会議では特段個人情報を取り扱う予定がないため、公開とさせていただきたいと思えます。第３条では会議の傍聴について規定しており、同第１項では定員を１５名としているほか、同第３項では傍聴を制限する事項、同第４項では傍聴人の守らなければならない事項などを定めております。第４条では議事録の作成及び公表を規定しており、会議の終了後に議事録を作成し、公表することを定めております。
委員長	ただいまの内容について、何か質問はございますか。 (質問等なし)

	ないようですので、こちらの内容でご了承いただければと思います。 それでは、次第7の議事に入ります。 はじめに、事務局から当委員会の概要、委員会の進め方について説明をお願いします。
事務局	それでは、事務局から当委員会の概要につきましてご説明いたします。 先ほど合同の検討委員会においてもお話をさせていただきましたが、令和8年3月に基本方針を策定しました。基本方針では、適正規模の基準、適正配置の基準、学校再編の方法や検討エリアなどについて示されております。本検討委員会では、基本方針に基づいた学校再編のスケジュール、再編校の候補地などについて検討を行い、令和8年度中の基本計画策定を目指していきたいというものでございます。 南地区検討委員会は13名の委員をお願いをしております。学識経験者や小中学校長、園長という教育の専門知識を有する方だけではなく、小中学校児童生徒の保護者、未就学児の保護者の方や、地域の代表である区長など、それぞれの立場からご意見をいただきたいと考えております。
委員長	少子化が進む中であっても、教育大綱の施策目的「自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまち」の実現に向けて、児童生徒の教育条件の改善を図り、より良い教育環境を確保するため、基本方針が策定されました。未来を担う子どもたちのために、様々な立場の方が委員となり、学校再編のスケジュールや候補地などについて意見を交わしながら検討していただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、議題(1)基本方針の感想及び立場における現状と課題について、事務局より説明をお願いします。
事務局	本日は第1回目の検討委員会になります。今後、委員の皆様には基本計画の策定に向けて様々な検討をしていただくこととなります。そのような中、現段階において皆様それぞれのお立場での学校再編に関する現状や課題について、ご意見をいただければと思っております。 また、資料1は基本方針の14ページに掲載している児童生徒数及び学級数の推計について、最新の令和8年度を基準として推計し直したものとなります。加えて、基本方針市民説明会の開催結果概要についてもお配りしましたので参考にご覧ください。
委員長	ただいま事務局より説明がありました。本日は初回ということで、全員の方から一言ご発言いただきたいと思います。なお、お時間の都合上、ご発言は一人1分程度でお願いいたします。お話し足りない場合もあるかと思い

	ますが、その場合はお配りさせていただいた質問票を使用し、後ほど事務局へご提出ください。こちらについては、後日メールで事務局に提出いただいても構いません。また、意見や質問への回答については、次回までにお示しさせていただきます。 それでは、よろしくお願いいたします。
委員	下から積み上げて民意を諮りながら進めていくというのはわかりますが、それだとどこへ行くかわからなくなります。ある程度何年先か、そして最終的に中学校はいくつが理想か、4校はもう危なくて3校でも危ないという、最終的には2校になるしかないなどそういったことになるので、何回もやっていたら同じです。明治につくった各小学校は同じようにしっかり真ん中で1.5キロメートルになっています。百何十年前にできたものがあって、小学校は完璧だけどこういった形になってしまったわけなので、ぜひ市としてもスケジュールなどと言って人任せではなく、何年でやるか、そして最終的に中学校はいくつだというようなことを示してやっていかないと同じことを繰り返して足らなくなった等々なりますから、ぜひそういったことをお願いします。
委員	私は埼玉県ですずっと中学校の社会科教員をしていました。毎年1学級ずつ生徒数が減っていき、空き教室も増えていきました。同僚とも、このまま行くと学校の質が落ちる、最悪の場合は教員も大変になると話していて、そういった危機感が現職の最後の方にはありました。 今回の件に関して、2月に基本方針案が一旦市のホームページに出ていて、その時全てに目を通しましたが、私の結論はなるべく早く決めるということです。ただし、深い討議を行い、意見を集めて、実施に向けて前に進むことが大切かと思っています。そうでないと、児童生徒及び保護者、地域住民と、悩むことが多くなるかなと考えています。
委員長	ありがとうございます。ここまでのご意見として、議論はしっかりとしつつも可及的速やかにスケジュールを示しながら進めることが望ましいのではないかというお話がありました。
委員	五小でも単学級化が進みつつあります。児童が多様な人間関係の中で学ぶ環境をどう保障していくかが喫緊の課題になっている現状です。その意味でも、適正規模・適正配置は児童により良い教育環境を保障するという点において、大変重要な検討事項だろうとは考えています。ただ、その上で今後再編や通学区域の見直しが検討されていく場合は、3点慎重に審議が必要と思っていますことがあります。

	1 点目は資料にもありましたが、子どもたちが心配している人間関係の変化、それに対する心身のケア、そして、特別な配慮を要する子どもたちへの対応が必要になってくるだろうということです。 2 点目は、これも資料にアンケート結果が出ていましたが、保護者の方が懸念されている通学の安全、児童が安全に通い続けられる生活安全の設計がきちんとできるかどうかということです。 3 点目が、特に五小は地域と強い絆を築いてきていると肌で感じています。その地域とのつながりの維持・発展については、丁寧に地域の皆さんの声に耳を傾けていく必要があるだろうと考えています。
委員	やはり総児童数が年々減少しているというような状況はあります。しかしながら、特別支援学級や日本語指導教室というところで、今のところは空き教室がほぼないというような現状です。児童生徒数の減少というところで行きますと、再編していくことは必要かなと感じております。 私が懸念していることは、児童の登下校時の安全・安心ということです。児童によっては30分、40分かけて学校に来る場合もあります。この館林市の暑さに伴う熱中症対策というところで、市民説明会でも保護者の方から歩いて通うことを心配されている意見がありましたので、その点についても配慮していただけるとありがたいなと思っています。
委員	南地区で中学校は1校ということですが、やはり子どもの人数はどんどん減っていて、それに伴って教員数も減っています。そうすると、一つは部活動の対応が難しくなってくるということがあります。部活は残してほしいという保護者の方の願いもあるのですが、安全の確保を考えると部活動の精選なども今後はますます必要になってくると思っています。資料の推計を見ると、いずれは3学級になって2学級も出てくるということで、果たしてずっと四中が存続できるかどうかということも検討事項になってくるのかなと思っています。 また、委員の方に南地区の小学校から1.5キロメートル以内の範囲で円を描いてどこが通学範囲として適しているのかといった図を見せていただいたのですが、この南地区は統合が望ましいのか、通学区域の見直しが必要なのか、その点も小学校のことを考えると検討する内容かと感じています。
委員長	ありがとうございます。後でまとめる際にお話をしようかと思っておりましたが、3地区に分けて検討される中で、南地区については小学校が2校、中学校が1校の計3校と一見シンプルです。だからこそ逆に難しいといえますか、よく検討や議論をしなければならないと考えております。長期的には恐

	らく中学校も小規模化をしていく状況が見えている中で、そこをどう考えるのかという課題もやはりあると思います。 それからもう一つは、ご意見もありましたように仮に通学距離が延びるとすると、安全上の配慮というのが非常に大きな課題になるのではないかと思います。一見シンプルですが、そう簡単ではないだろうという思いでこちらに座らせていただいております。皆さんからもしっかりお話を伺えればと思っていますところでございます。
委員	幼稚園や保育園も統合してこども園化が進んでいます。子どもたちが学ぶためにはやはりある程度の人数、集団が必要だということで、学校もそういう段階に来ているのだなと感じています。学校でしっかり学べる環境が必要ですので、これからしっかり自分たちで考えてつくっていったらいいと思います。皆さんのご意見をお聞きしますとこれから様々な課題が挙げられてくるとは思いますが、この検討委員会でしっかり考えていければいいなと思っています。
委員	子どもの学級は2年生まで17人で、3年生の時に33人に増えたこともあり、その時に子どもたちに戸惑いなどもあったので、再編して大きな学級になるというのは段階的にしてもらえるとありがたいなと思います。再編するのは良いのですが、一気に大きな学級となると子どもたちの不安も広がると思うので、統合するイコール学級数や人数が大きくなるのではなく、先生たちの関係もあると思いますが、複数クラスあって、一つのクラスが少数というのが最初はありがたいかなと、保護者の観点では思います。 市民説明会でも出ていた学童の話もぜひ一緒に進めていただきたいです。待機児童などもあると聞いています。待機となると、親は仕事ができなくなってしまうので、一緒に検討していただけるとありがたいと思います。
委員	感想ということで述べさせていただきたいのですが、中学生を見ていると結構真面目にいろいろなことを考えているなと思います。実際にこういうことは親同士や大人が話すことがとても多いのですが、子どもたちの意見なども聞ける機会があると良いと思いますし、普段関わっている保護者の方をよく見るととても忙しいと感じます。こういった本当は一緒に考えた方が良い話が流れていっている感じがするので、保護者の方々に伝わる方法を、周知できる方法を探していくことが重要なのではないかと考えています。
委員	保護者の意見も少し聞きながら今日は参加させていただきました。園児の保護者はまだ小学校というイメージが具体的にないので、こういったものかということと、兄や姉が小学校に行っている、やはり日々忙しいのでそうい

	ったことを全然把握していないという現状があると思います。興味がある方や不安に思っている方はホームページを見て説明もしっかり聞くとと思いますが、普段の生活で子育てに追われていたりするとそこまでは意識が向かない、いくらこちらが発信したところで興味を持って考えようとする方は多少少ないと思います。いざ蓋を開けてこうなりましたとなった時に、いろいろな意見や反論が出るかなと思ったので、興味ある人だけ聞いてではなく、今の段階でしっかり保護者の皆さんに周知する必要があると思いました。 その上で、私たちも意見をしっかりとくみ取ってこの委員会で発言する必要があると強く思ったので、周知という点で少し工夫していただきたいということ、やはり小学校で再編となった時はメンタル的な不安がとても大きく、友人関係や学校社会での人間関係が大きく変わると思うので、その点もしっかり考えた上で検討していただきたいなと思います。
委員長	非常に大切な論点だと思います。小学校を具体的になかなかイメージができないというお話もありましたが、やはりその段階で疑問に思ったことをぶつけていただくというのは非常に大切なことだと思います。説明の中でもメンタルケアの部分が重点項目として出てくるとの話がありましたが、やはり義務教育にとって非常に大切なことだと思います。 例えば、再編して学級人数が多くなったり、少なくなったりするという状況は大人が考えるよりも強く子どもに影響する部分があると思います。実際に子育てをなさっている方やこれから小学校に送り出す園長のお立場からご意見をいただけるのは非常に大切なことですので、ぜひ自信を持ってご発言いただければと思います。なかなかこういったお話は団体の代表として来ていただいても、団体の中に浸透していくのが少々難しい部分があるだろうと思います。その辺りは恐らく教育委員会の方々がまた工夫されて、広くお話が伝わって危惧も含めてご意見いただけるような形に持っていければいいのかなと考えました。
委員	仕事柄都市開発のことなどに携わっていますが、大きく分けて館林市もほかの市町村も、市街化区域というおおむね10年開発を進めていこうという地域と、抑制していこうという市街化調整区域に分かれています。開発をしないという地区には人が集まりません。市街化区域でしか家も建ちませんし、アパートも建ちません。そうすればそこに引っ越す人間に限られてきます。より都市部の中心に近い所に人が集まり、ハザードマップでいう川の近くといったエリアからは人が遠ざかっていくという現状があります。 机上のお話もとても大切ですが、現場の立場から言わせてもらえば縮小するのは簡単ですが、開発が10年で終わってまた違う箇所が市街化区域に指定

	されればそこでまた開発が進みます。その時に小学校がなくなっていたのでは、戻す方が難しいお話になります。拡大する方が難しくなると思いますので、この委員会だけではなく、都市計画課や市の別組織や部署も関係する壮大なことだなといつも考えていました。私も組織の一員として意見が言える立場になったことを本当に嬉しく思いますし、これからもできる限り現場の声などを発信していきたいと思います。
委員長	スパンが長いですが、こちらも非常に大切なお話だと思います。 高校との違いというところで、高校は基本的に広域から集まってくるという前提があります。今はコミュニティ・スクールに取り組むような高校もあり、地域との連携を図っていたりします。高校は広域性がありますが、小中学校というのはもう本当に地域に根差していますし、そもそも小学校については自治会や育成会が小学校区内にできているという成り立ちもあって、まさに地域そのものというところがあると思います。そのような性格の違いがありますので、丁寧に議論を行って方向性を見出していく必要があると考えるところであります。 皆さんからご意見を頂戴しました。時間もまだありますので、少し話し足りない、今日の段階で言っておきたいということがありましたらお話をいただければと思います。
委員	学童のお話がありましたよね。委員の構成メンバーとして学童の方がいませんが、その点も勘案するべきだと思います。携わっている方がいるのでこの地区についてはいいかなと思います。 私としては、市全体の再編のことを考えていきたいです。南地区となればもうほぼもう大体わかっている部分があると思います。どちらにするかの問題もあるし、スクールバスをどうするか、それはそれでいいですが、それをして再編できたのにもかかわらずまたやるのかという話になるのが嫌です。アンケートや審議会の議事録などを見ますと、最終的には持たない、でも4つの中学校を標準には行かなくとも何とか持たせる、それでやるという意味表示があれば、そこを目指して進められます。何だかわからない中で一生懸命やっても定まらないし、また再編が出てくるという話にはいけないので、先ほどお話ししたようにリーダーシップを取って行うべきです。 物事というのは具体から抽象という機能的な部分と、デカルトのように誰もが認めるような結論的な部分からやっていくという方法があります。民主的で良いですが、もう少し教育委員会はある程度のところで「ここでやりましょう」「こういうことです」というように納得させていかないと、ただ皆さんに任せてそのうちどうなるかわからなくなるというのは、私としても懸念が

	あります。
委員長	教育委員会でも恐らくいろいろ検討やシミュレーションをされていて、それはまた追々資料等として示されて議論が深まっていくのかなと思います。 少子化というのは結局、底が見えないお話だと思います。私も高校で携わっていて感じたのは、やはりその段階でのベターを求めていくことではあるのですが、最終形についてこうなるだろうということも、それが最終かどうかともわからない部分があるということです。先ほどお話にあったように、あまりに短期間で次の動きとなると、これはもう本当に子どもたちも学校も大変になってしまいますので、そこは中長期ということになると思います。その辺りを選びながら、今回の議論をしていくエリアとしてこの3地区になっていますが、また議論を深めながら様々なご意見を頂戴できればと思います。
委員	これまで各公民館での説明会には五小と美園小に関わる地区全部に参加してその時にもお話ししましたが、住民になりそうな方から「学校はどっちになりますか」という問合せが私のところに複数来ました。名乗られなかったのでどなたかはわかりませんが、恐らく市内他町か他市町の方からかと思います。中には、学校の位置を見て分譲住宅や転居を検討される方もいて、長引くということはある意味ではその方々が家を決める時間も長引いてしまうということになります。館林市の都市計画資料がホームページに出ていましたよね。そちらも含めて、リンクして物事を考えていくしかないのかなと考えています。
委員長	少し大きな枠組のお話も出てきました。小学校区は地域の基本単位になっているということからすると、教育の話ではありますが、実は行政にも関わってくるお話だとも思います。
委員	心配な点は先ほどお話しした内容ですが、まちづくりという視点では私も個人的に興味あります。通わせたい学校づくりは誠心誠意取り組ませてもらいますが、そこに住もうとする方々をどう支えていくのかというのはやはり行政としっかり連携していかなければ人口増にはつながらないし、イコール子どもも増えていかないと思います。館林市の核となる拠点が各地区にそれぞれできなければ、将来的にどうしても先細りになっていくというのはもう否めないのではないのでしょうか。並行して様々な動きが出ていくことが、総合的には必要になってくるだろうという考えは持っています。
委員	やはりゴールが見えないのは本当に減少しているからというところで仕方ないと思いますが、第一段階として何年後というような小ゴールが見えてい

	ると一度そこまでの地点から逆算して考えさせていただけるので、こちらとしてはありがたいなと思っています。
委員	先ほどと重なりますが、新しい推計表では6年後の令和14年度には中学校も3学級ずつ、小学校も五小と美園小を合わせるとほとんど1学級ずつ上がって3学級もあるものの多くは2学級になります。更に10年後を見ると、もう中学校でも2学級が出てきます。小学校は合わせて2学級ずつですが、少し先を見ればまた単学級になっていくだろうということを考えると、再編してもまた次の課題が出てきて、なかなかどこを目標にして取り組んでいけばいいのかが本当に難しいなというのを、皆さんのお話を聞いて改めて感じました。
委員	子どもの育ちや学びについての環境づくりを今非常に悩みながら頑張っているところです。保護者の方は先ほどお話があったようにあまりイメージが湧いていないようなのですが、職員はいろいろな資料を見させていただく中で危機感を持ち始めています。子どもたちのこれからの育ちや心のケアももちろん、いろいろな部分でどういった関わり方をしていけば良いかというところは少しずつ話題にもなっているところですので、その点を保護者と地域の方と一緒に共有できるようにはしていきたいと考えています。
委員	先ほどお話があった都市計画の点で、昔五小は団地がほとんどの人数を占めていました。今は子どもが数えるくらいしかないというところで、建替えやいろいろな計画があるとまた人数の変更があると思うので、ぜひほかの部署と連携してやっていただければと思います。
委員長	横の連携もということで、教育委員会の方にお願ひできればと思います。
委員	先ほどから何度か話題に出ている少子化は恐らくもう食い止められないというところで、逆に言うと周りの市町は何人産んだら何十万、何歳まではいくらの補助をするなどの制度がありますが、館林市はその辺はもう手厚いとは言えない状況になっていました。でも群馬県は移住や問合せが今増えているというお話を聞くと、やはり館林市の魅力もいろいろあるのではないのかと思います。 教育大綱で「自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもたち」を掲げていますが、そういった子どもたちが育てばどんなトラブルや困難があったとしても乗り越えていけると思います。それを考えた時に、この小学校区の園の先生や保護者と話しているだけではなく、今から子どもを産む人や今赤ちゃんを産んだ人たちがこのまちで子どもを育てて、

	「うちの子どもたちは大丈夫。何があっても強く生きていける」と考えていけるような、何か支え合いができるといいのかなと思います。 今学童に携わっていますが、地区の中に建てているのでうるさくしたりなどいろいろな面でご迷惑もおかけしています。けれど、それが多分子どもたちにとっても良い財産になってくるだろうなと思います。学童も縮小していく形になった時に、学童の方もこういう話合いに参加できていないと、いきなり終わりになると子どもたちも選べなくなってしまう。こういった建設的な話も大切ですが、大綱の目的に掲げている子どもってどんな子どもなのだろうといった夢ある話もできると、どういうふうに育てたらそうなるのかという話もできるといいなと思います。
委員長	先ほどご意見もありましたが、ぜひこの検討委員会で学童視点のお話も頂戴できれば良い議論になると思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。
委員	皆さんの意見がとても勉強になります。やはり少子化というのは食い止められないですが、子育てに魅力的なまちという意味では少しは食い止められる要因になると思います。子育て世代の保護者の方とお話ししていても、館林市は少し子育てに対して魅力的に感じないという意見を多く聞くので、そういった点では管轄は違いますが、頑張りたいと思います。 また、現場の先生方も保護者よりかは真剣に考えているので、そういった意見などをしっかり反映していただきたいという意見も先生からいただいています。
委員	私は先ほどからお話が挙がっている少子化を止めたいと思っています。館林市の行政には本当に頑張っていて、住みやすいまち、子どもを持っても十分やっていけるようなまちにさせていただいて、僕は出会いの方で支援ができればと思っています。今はマッチングアプリという、昔でいうお見合いに近い出会いしかなかったものですからイベント型の会社を立ち上げて頑張っているのですが、何よりも少子化を止めたいです。今仕方なしに諦めの検討を集まっていますが、決して諦めないで行動も増やしてこんなこと考えないで済むようなまちにしたいと思っています。自分一人ではとてもできませんので、組織の一員となって皆さんのご協力もいただきながら何とか子どもが多いまちにしたいです。 私は年を取ってから子どもができました。本当に可愛くて仕方なくて、いろいろ取り組んでこういった協議に参加したりしているのも、子どものために何か頑張っているのかと思ったのがきっかけです。なので、この喜びを伝

	えて何とか少子化を止めて、子どもの多いまちにしたいというのが私の一番の気持ちです。
委員	1 学級 16 人ですね。今後基準が下がるという可能性もあります。国も色々考えているとは思いますが、数は変わりません。推計表では五小は今の 1 年生が令和 13 年度に 6 年生として卒業する時に 1 クラスで、それ以降ずっと 1 クラスになります。美園小は若干 2 クラスになりますが。2 校しかない南地区は一番先行して再編できるという、メリットなのかデメリットなのかわかりませんが、そういうことであれば先進的なものとしてやってみたらいかがでしょうか。例えば、6 年後にそうなるから 6 年を目指そうとか、それでは少し先だから 5 年にしようという話になりますから、そういったことについて次回までに皆さんの意見をお聞きしたいなと思います。そこからまずスタートして、目標が定まっていればもう少し私たちも段階的に考えられるのではないかと思います。自己規制しながらやってかないと、いつまで経っても先送りになって委員が変わってしまいます。今年度中に方向性を見出すのでしょうが、それも一つの提案としてお話ししました。
委員長	本日のお話や資料を各団体等で共有していただき、こういう形で始まったということの周知が一つお願いとしてありますが、今のご意見もありましたので少し今後のスケジュールについて、感覚的なものでも結構ですのでこの点のお考えも頂戴できればと思います。 皆さんありがとうございました。それぞれのお立場で、地域の子どものことも含めて様々な観点からお聞かせいただきました。私は学校教育の人間でしたが、現在は社会教育に携わっています。館林市はコミュニティ・スクールを導入している先進的な地域かと思いますが、そういったものや社会教育関係の研修、家庭教育関係の研修を行っております。特に、家庭教育関係の研修講座には学童の方や NPO の方に非常に多く参加していただいています。社会教育には公民館が一つの軸としてあると思いますが、この分野でいろいろな活動をされている若い方は、NPO を立ち上げて活動されている方がとても多く、そういう方々との連携も行っています。そういった点から、学校は地域コミュニティの核として国でも重要な位置付けになっていると思いますが、NPO 等学校外で学校を支えていただく皆さんも含めた一つの在り方をつくっていくというのが非常に大切だと思っています。皆さんのお話を伺って、その辺のお考えも入れながら今後議論をしていく必要があるのかなと思います。 繰り返しになりますが、この南地区は小学校 2 校、中学校 1 校ということで、一見シンプルで、一つの方向づけができればそこに至る道筋というのは比較

	的早いかもしれません。ただ、地区が変更になるという側面は非常に大きいことですので、やはり丁寧な議論が必要だろうとも思っています。次回は本日のお話を受けて地区ごとに深掘りしていくことになります。約1年の長丁場になると思いますが、私としては皆さん、それから地域の思いを取りこぼすことがないように進めていきたいと思っています。ほかの地区に比べて小規模ですので、チーム南地区ということで子どもたちにとってより良い方向性を見出せるようにご協力をお願いいたします。また、先ほど申し上げましたが、今後所属団体や関係する皆さんにも会議の内容等について情報を共有していただいて、次回以降に向けて各団体等のご意見の集約をお願いできればと思います。 以上、予定しておりました議題が終了しましたので、議長の座を降りさせていただきます。長時間にわたりご協力いただき、ありがとうございました。
--	--

8 その他

- ・第2回、第3回検討委員会の開催日時の確認と決定

第2回南地区検討委員会は、7月14日（火）午後2時から赤羽公民館で開催。

第3回南地区検討委員会は、8月25日（火）午後6時から分福公民館で開催。

9 閉会